

< 運営推進会議における評価 >

【事業所概要】

法人名	社会福祉法人あさひ共生福祉会	事業所名	あさひナーシングセンター
所在地	(〒 955 - 0082) 新潟県三条市西裏館三丁目6番 54号		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

- ・ 住み慣れた地域で最後までその人らしい生活を送ることができるように支援してまいります。
- ・ 医療ニーズのある方はもちろん、様々な状態・病状の方たちの在宅療養の支援と共に介護者・家族を含めた総合的な支援を行います。

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2023 年 12 月 31 日	従業者等自己評価 実施人数	(15) 人	※管理者を含む
----------------	---------------------	------------------	----------	---------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2024 年 2 月 21 日	出席人数 (合計)	(6) 人	※自事業所職員を含む
出席者 (内訳)	<input type="checkbox"/> 自事業所職員 (2 人) <input type="checkbox"/> 市町村職員 (1 人) <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 (〃 人) <input type="checkbox"/> 地域住民の代表者 (1 人) <input type="checkbox"/> 利用者 (〃 人) <input type="checkbox"/> 利用者の家族 (2 人) <input type="checkbox"/> 知見を有する者 (〃 人) <input type="checkbox"/> その他 (〃 人)			

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価
----	---------	------------	------

<p>I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の配置が変わり、職員不足のため研修の参加が不十分で知識の向上につなげられていない。 ・送迎と訪問とで連携の取り方が（申し送り）難しくなっている。 ・職種間でモニタリングの共有ができていなかった。 ・年 2 回の避難訓練の取り組み方法の改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の研修育成を行えるように時間の調整を行っていく。 ・確実に申し送りができるように記録・申し送り事項を作成していく。 ・職種間で共有できるように書面に残す。 ・避難訓練を行う際、自治会・消防団の協力連携体制を強化できるよう調整する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体会議の中で時間を設け医療的な勉強会を行なっている。 ・日々の記録の見やすさを考え、情報を記録に入力をしていくことを徹底するようにしていく。 ・利用者様の申し送り事項を担当がまとめ、変更あれば修正していく。 	
<p>II. サービス提供等の評価</p>	<p>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家族からの意向を確認し、サービスを提供するように努めた。 ・事故防止リスクを踏まえた計画が不十分であった。 ・ADL 変化時の適切なプランの反映が出来ていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の状態変化を早期発見し柔軟にプランを変更していく。また家族の状態も把握しプランに反映する。 ・事故防止委員会で事故防止リスクを踏まえた計画を立てていくようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の状態を早期発見しプランに反映できた。 ・事故防止委員会では全体会議の時に事故の対応策の評価を行っている。
<p>2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関との情報共有を図り状態のあったサービスができるよう努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関・福祉用具事業者と情報共有できるようカンファレンスを開催し相談できる体制を整えておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他職種の方と連携はかり情報の共有は行えた。 	
<p>3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 32～41)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・医療処置等の高い人のマニュアル作成し準備をしておく。 ・コロナ禍のため地域の方々と接点を持つことができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアル等の作成に取り組んでいく。 ・地域等の関り持つために広報を作成し事業所を知って頂く機会を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・完全には作成出来てはいないが、現在利用されている医療処置・病状の理解と対応についてのマニュアルは作成している。 ・広報を作成し配布を行っている。 	

III. 結果評価 (評価項目 42～44)	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者家族より「利用して良かった」と安心されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な状態の受け入れを行い職員の経験値を上げていけるよう努力をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様に喜んで安心して利用できるよう日々改善と・行事等の計画を立てていく。
---------------------------	---	---	---

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目	評価結果	改善計画	
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	<ul style="list-style-type: none"> ・介護職員の質の向上に向けて取り組んでいるが研修の参加をもっと充実できるとよい。 ・人員不足の改善を行っている。 ・事務的作業が終わらず時間外で作業することがある。 ・災害時の利用者の家庭環境に合わせて柔軟に対応している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・受講してもらえるようにスタッフに周知してもらい計画を立てていく。 ・法人の取組でもある、シェア体制の活用し協力していく。 ・業務の見直しを行い時間の取り方の工夫し時間外勤務をなくしていく。 ・災害時の連絡を素早くできるように職員間はラインの活用利用者様は緊急時連絡シートをまとめておく。 	
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の能力を活かし心身の機能の維持回復が不十分である。 ・看取りケアの体制ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ADL の状態の把握をし、機能を活かせるように声掛けの工夫・カンファレンスを行い研修等行っていく。日頃の機能訓練として体操・歩行訓練を行っていけるよう意識していく。 また、個別性に対応できるよう（指示書に記入されている方もいるため）看護対応でリハビリ時間が確保できる。 ・在宅看取りの強化体制を継続していく。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28)	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議を定期的で開催し、地域理解を深められるように計画を立てている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続して包括的なサポートの情報をお願い取り組んでいく。

	～31)		
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32～41)	・地域活動の理解を広めるため積極的な啓発活動が不十分であった。	・ホームページ・営業活動・広報誌の発刊は出来たが、地域住民向けの活動の参加をもっとしてもらえるように計画を立てる。 ・利用者様が地域の方と交流できる機会をつくる。
Ⅲ. 結果評価 (評価項目 42～44)		・サービスを導入することによって継続的な療養生活を行い家族にも安心感が得られている。	・継続的なサービスと医療が必要な利用者様に対する在宅サービスの強化 ① 家族からのフィードバックの共有方法の改善 ② 訪問看護による家族との関り 訪問サービスの十分な提供が行える人員体制の整備

※自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 評価表 [事業所自己評価・運営推進会議における評価]

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
I 事業運営の評価 [適切な事業運営]							
(1) 理念等の明確化							
① 看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の明確化とその実践							
1	○ サービスに求められる「①医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」、「②在宅での看取りの支援」、「③生活機能の維持回復」、「④家族の負担軽減」、「⑤地域包括ケアへの貢献」を含む、独自の理念等を掲げている		○			<ul style="list-style-type: none"> ・おおよそできている ・継続してほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ①～⑤の全てを含む理念等がある場合は「よくできている」 ✓ ①～⑤の一部を含む理念等が掲げられている場合は、「おおよそできている」もしくは「あまりできていない」 ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」
2	○ サービスの特徴および事業所の理念等について、職員がその内容を理解し、実践している		○			<ul style="list-style-type: none"> ・おおよそできている ・理念等踏まえた実践の充足度を評価します。 ・理解してほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「サービスの特徴および理念等を踏まえた実践」の充足度を評価します ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」
						<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様の希望に寄り添い自宅での生活が継続できるように、体操・脳トレの実践を行い機能維持に取り組んでいる。 ・看取り・医療保険適用の利用者様の受け入れが増えている。理念は明確化されており近づいてきている。 ・利用者様とご家族様に聞き取りを行い意向に沿った支援を行なっている。 	
						<ul style="list-style-type: none"> ・利用者に状況に合った個別介護計画を提供しているが更なるサービスの向上を目指していかなければならない。 ・全職員が看護小規模多機能のシステム 	

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		や特徴を理解できていない					
(2) 人材の育成							
① 専門技術の向上のための取組							
3	○ 職員との話し合いなどを通じて、各職員の中長期的な育成計画などを作成している		○			<ul style="list-style-type: none"> ・育成計画の作成の充足度に評価します。 ・継続してほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「育成計画の作成」の状況について、充足度を評価します ✓ すべての職員について育成計画などを作成している場合は「よくできている」 ✓ 育成計画などを作成していない場合は「全くできていない」
4	○ 法人内外の研修を受ける機会を育成計画等に基づいて確保するなど、職員の専門技術の向上のための日常業務以外での機会を確保している		○			<ul style="list-style-type: none"> ・継続してほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「専門技術の向上のための日常業務以外での機会の確保」について、充足度を評価します
② 介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
5	○ 介護職・看護職・介護支援専門員の間で、職員が相互に情報を共有する機会が、確保されている		○			<p>・定期的にカンファレンスの開催必要</p> <p>・連携を図れるよう調整をしてほしい。</p>	<p>✓ 「情報を共有する機会」の充足度を評価します</p> <p>✓ 例えば「利用者等の具体的なケースについて話し合うための、定期的なカンファレンスの開催」などが考えられます</p>
(3) 組織体制の構築							
① 運営推進会議で得られた意見等の反映							
6	○ 運営推進会議で得られた要望、助言等を、サービスの提供等に反映させている		○			<p>・継続してほしい</p>	<p>✓ 「得られた要望・助言等のサービスへの反映」の視点から、充足度を評価します</p>
② 職員が安心して働くことができる就業環境の整備							
7	○ 職員が、安心して働くことができる就業環境の整備に努めている		○			<p>・外部からの苦情等の圧力があっても守ってあげてほしい。</p>	<p>✓ 「職員が、安心して働くことのできる就業環境」の充足度を評価します</p> <p>✓ 例えば、「職員の能力向上の支援」、「精神的な負担の軽減のための支援」、「労働時間への配慮」などが考えられます</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		メンタルの不調の早期発見に努めている。 ・セクハラ・パワハラなどもなし。 ・事務的作業が終わらず時間外で作業することがある。(業務改善をしている最中) ・利用者様の訪問状況に合わせてと思われるが、終業時間の変更が多い。					
(4) 情報提供・共有のための基盤整備							
① 利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備							
8	○ 利用者等の情報について、随時更新を行うとともに、必要に応じて職員間で迅速に共有できるよう工夫されている		○				✓ 「情報の随時の更新」と「職員間で迅速に共有するための工夫」の2つの視点から、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] ・ケアカルテ（パソコンシステム）や利用者様の情報共有できる予定表を活用している。 ・個別の申し送り事項を作成し共有できるよう取り組んでいる（情報の更新ができていないことがある） ・急な新規利用者様の情報が間に合わないことがある。					
(5) 安全管理の徹底							
① 各種の事故に対する安全管理							
9	○ サービス提供に係る利用者		○			・継続してほしい	✓ 「各種の事故に対する予防・対

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
	等および職員の安全確保のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている						策」の充足度を評価します 対策が求められる事項としては、例えば「医療・ケア事故の予防・対策」、「交通安全」、「夜間訪問時の防犯対策」、「個人情報保護」などが考えられます
② 災害等の緊急時の体制の構築							
10	○ 災害などの緊急時においても、サービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関の間で、具体的な対応方針が共有されている			○		<ul style="list-style-type: none"> ・ 民生委員も町内の高齢者の状況を把握しきれないので入所した人は民生委員に CM さんから連絡ほしい。 ANC 回答：CM も民生委員が誰なのか把握しきれない。連絡先も聞いていいのか？わからないのでお互いで安否確認をして情報を市に報告していただけたらと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「緊急時におけるサービス提供のための備え」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「安否確認方法の明確化」、「連絡先リストの作成」、「医療材料などの確保」、「災害時ケアのマニュアル化」などが考えられます

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
II サービス提供等の評価							
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供							
(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成							
① 利用者等の24時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施							
11	○ 在宅時の利用者の生活状況や家族等介護者の状況等を含む、利用者等の24時間の暮らし全体に着目したアセスメントが行われている	○				・継続してほしい	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等も含めた24時間の暮らし全体に着目したアセスメント」の充足度を評価します ✓ ケアが包括的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、家族等も含めた24時間の暮らし全体に着目したアセスメントが必要となります
12	○ 介護職と看護職がそれぞれの視点から実施したアセスメントの結果が、両職種の間で共有されている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「介護職と看護職間でのアセスメント結果の共有」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護の両面から行われたアセスメントの結果は、その後のつき合わせなどを通じて、両職種で共有されることが望ましいとい

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		数は少なめと思われる。					えます
② 利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成							
13	○ 家族を含む利用者等の考えを把握するとともに、その目標の達成に向けた計画が作成されている		○			・継続してほしい	✓ 「家族等の考えを含めた計画の作成」について、充足度を評価し利用者のみでなく、家族等の考えを適切に把握するとともに、その考えを含めた計画を作成することは重要であるといえます
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・サービス計画書にはご家族様の意向が反映され方向性は合致している。 ・月の評価も行っているが不明な点もある。					
14	○ 利用者の有する能力を最大限に活かした、「心身の機能の維持回復」「生活機能の維持又は向上」を目指すことを重視した計画が作成されている			○			✓ 「利用者の有する能力を活かした、心身機能の維持回復を重視した計画の作成」について、充足度を評価します ✓ 「利用者が尊厳を持って、その有する能力に応じ地域において自立した日常生活を営む」ために、必要な視点であるといえます
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・残存機能を活かしたケアは個々に必要だと意識しているが不十分である。 ・ご本人ができることは声掛けをして見守っている。 ・体操や歩行訓練など身体機能を維持できるように行っている。					
③ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画の作成							
15	○ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏ま		○				✓ 「状況変化の予測」と「リスク管理」の2つの視点から、充足度を

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	えた計画が作成されている	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・リスクに関しては、職員間でカンファレンス共有できている。 ・利用者様の状況に伴い環境整備や福祉用具の設置等の話し合いを行っている。 ・体調管理を訪問看護で行っているが高齢者様の体調変化が著しく予防できていない。					評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、特に看護職による予後予測などを踏まえて計画を作成することが重要です
(2) 利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践							
① 継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映							
16	○ サービス提供を通じた継続的なアセスメントにより、利用者等の状況変化を早期に把握し、計画への適宜反映が行われている			○		✓ 「早期の把握」と「計画への適宜反映」の2つの視点から、充足度を評価します	
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・体調の悪化など状況変化に応じて話し合いをしているが計画への反映は出来ていない。 ・ADLの低下や入退院を繰り返す利用者					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		様の体調変化や生活の変化に応じて介護 度の変更申請対応できている。ケアプラ ン追加変更している。					
② 居宅への訪問を含む、利用者等の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映							
17	○ 通い・泊まりの利用に過度 に偏らないよう、適時適切 に利用者宅を訪問すること で、家族等を含めた居宅で の生活状況の変化を継続的 に把握している			○		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニーズには合っているが、偏りが観られて いる。人数が増えるほど偏りも大き くなる。 ・同居の場合は問題ないが一人暮らしと なると課題を残す。 ・宿泊、通い、訪問のバランスが悪い、も う少し訪問に重視を置いてサービスを組 む必要がある。 ・過度に偏らないよう考えられていると 思う。 ・ご利用者のほとんどは訪問看護・介護 を利用されており、24時間の生活環境の 把握に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「訪問による、家族等を含めた居 宅での生活状況の変化の継続的 な把握」という視点から、充足度 を評価します ✓ 訪問によるケアの提供は、家族等 を含めた居宅での生活状況を把 握するためにも重要です
③ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等に関する関係多職種との情報共有							
18	○ 利用者等の状況変化や目標 の達成状況等について、主		○			<ul style="list-style-type: none"> ・継続してほしい <ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者等の状況変化や目標の 達成状況等の事業所内外を含む 	

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足	
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い			
	<p>治医など、事業所内外を含む関係多職種と情報が共有されている</p>	<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業所内外ではできているが、主治医との直接的な情報がなく、間接的な達成となっている。 ・体調変化等がある時は主治医に連絡し指示を仰いでいる。月一回の報告書が提出されており共有できている。 					<p>関係多職種との情報共有」について、充足度を評価します</p>	
<p>(3)介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供</p>								
<p>① 介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供</p>								
19	<p>○ 介護職と看護職のそれぞれの専門性を最大限に活かしながら、柔軟な役割分担が行われている</p>		○				<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護士ができない事、医療が必要な方は看護が対応している。 ・介護、看護共に処置、ケア、送迎など協力し合い、スムーズに対応できるよう月一回勉強会を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「介護職と看護職の専門性を活かした役割分担」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護では、効果的・効率的なサービス提供のために、各々の専門性を活かした役割分担や、業務の状況等に応じた柔軟な役割分担を行うことが重要です

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	おおよそ でき ている	あまりで きてい ない	全く でき てい ない		
20	○ 利用者等の状況について、介護職と看護職が互いに情報を共有し対応策を検討するなど、両職種間の連携が行われている		○				✓ 「介護職と看護職の情報共有および対応策の検討」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・状況に変化がある度に話し合いを行っている。ケアカルテや申し送りで情報を共有し連携できている。 ・リアルタイムでご利用者の最新の情報を共有できている。 ・申し送りが上手くできていない。申し送り方法を検討中である。					
② 看護職から介護職への情報提供および提案							
21	○ 看護職から介護職に対して、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復などの観点から、情報提供や提案等を行っている		○				✓ 「看護職の専門性を活かした、介護職への情報提供や提案等」について、充足度を評価します ✓ このような情報提供や提案等は、看護職の専門性を活かした役割の1つとして期待されます
(4)利用者等との情報及び意識の共有							
① 利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供							
22	○ サービスの趣旨および特徴等について、分かりやすく		○				✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	説明し、利用者等の理解を得ている	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・看護、介護共に申し送り表の作成を行っている。CMを通して理解を得て友好的な関係を築けていると思われる。 ・何度も説明を行っているが、伝えきれていない、伝わっていない部分もあると思う。					
② 利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明							
23	○ 作成した計画の内容や在宅での療養生活の継続に向けて留意すべき点等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		○			<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・留意点、リスクなど説明したが足りていない事があり理解を得られていない事がある。 ・NS、CM から説明を行い家庭環境の改善なども含めて理解を得られていると思われる。	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
24	○ 利用者等が行う医療処置や医療機器の取り扱い方法、家族等が行うケアの提供方法等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解		○			<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・家族がケアに入らなければならない時は理解できるよう分かりやすくパンフレ	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	を得ている	ット等を用いて説明、指導を行っている。 ・医療面ではNSが行っている。 ・食事前の血糖値測定をご利用者と一緒 に確認している。					
③ 重度化した場合や終末期における対応方針の、利用者等との相談と共有							
25	○ 利用者本人（意思の決定・表示ができない場合は家族等）の希望や意向を把握し、サービスの提供に反映している		○			・継続してほしい	✓ 「サービス提供への適切な反映」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・家族の思いをその都度確認し、ご利用者の状態の応じサービスの提供を行っている。					
26	○ 在宅生活の継続の可否を検討すべき状況を予め想定し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有することができる		○			・継続してほしい	✓ 「将来に発生し得る様々なリスクを想定した上での、対応策の検討と共有」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・ご本人、ご家族の気持ちを汲み取り対応している。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
27	○ 終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の意向等を記録として残している		○			・継続してほしい	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「予後および死までの経過の説明」と「記録の有無」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 「丁寧に説明し」且つ「記録として残している」場合は「よくできている」
2. 多機関・多職種との連携							
(1) 病院・施設等との連携による円滑で切れ目のないケアの提供							
① 病院・施設等との連携や情報共有等による、在宅生活への円滑な移行							
28	○ 病院・施設等との連携・情報共有等により、病院・施設等		○			・継続してほしい	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者の円滑な在宅生活への移行」について、充足度を評価し

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援している	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・退院前カンファレンスにNS、CM なるべく参加し、細かな情報収集に努め、ご利用者の円滑な在宅生活への移行を行っている。 ・毎月のご利用者の報告書で主治医との情報を共有している。 ・サービスに移行するまでの期間が早い様に思われる。					ます ✓ 例えば、「退院・退所前のカンファレンスへの参加」、「利用者等に係る病院・施設等との継続した情報共有」などの取組が考えられます
② 入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有							
29	○ すべての利用者について、緊急時の対応方針等を、主治医等と相談・共有することができている		○				✓ 「緊急時の対応方針等の主治医等との相談・共有」を評価します ✓ 利用者の状態変化・家族等介護者の状況の変化など、実際に発生する前の段階から予め対応方針等
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・医師の指示に従い、医療ケアを行い、必要な時は報告、確認している。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		<ul style="list-style-type: none"> ・主治医との相談、共有はある程度できていると思うが、全てのご利用者までできていない。 ・退院時の連絡方法を指示書に記入してもらい対応している。セカンドオピニオンの対応をしてくださる総合病院を確認し緊急時には対応してもらっている。 					を主治医等と相談・共有しておくことが重要です
③ 地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築							
30	○ 地域の医療機関等との連携により、休日夜間等を含めて、すべての利用者について、急変時に即座に対応が可能な体制が構築されている		○			・継続してほしい	✓ 「即座な対応が可能な体制の構築」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> <ul style="list-style-type: none"> ・全てのご利用者の緊急連絡先は対応できるよう準備している。訪問看護指示書をもっているため、医師の指示に従い、医療ケアを行い、必要時報告、確認している。 ・ご利用者の希望により緊急時加算でNS が対応それ以外のご利用者は夜勤介護が対応している。夜勤介護からオンコ 					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		<p>ールナースに連絡する対応も可能である。</p> <p>・各ご利用者に合わせ対応のフローチャートを作成している。マニュアルも作成されており指導も必要時行われている。</p>					
(2) 多職種との連携体制の構築							
① 運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討							
31	<p>○ 運営推進会議等において、利用者のために必要と考えられる包括的なサポートについて、民生委員・地域包括支援センター・市区町村職員等への情報提供や提案が行われている</p>		○			<p>✓ 「利用者のために必要となる、介護保険外のサービスやインフォーマルサポート等を含めたケアの提供について、多職種とともに検討・支援を行っていくなどの取組」の充足度を評価します</p> <p>✓ そのような取組をしない場合は「全くできていない」</p> <p>✓ 民生委員のみでなく、自治会長や町会長などの住民代表も対象です</p>	
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p>・定期的な会議が行われており、支援、サポートについて必要な情報提供が行われている。</p> <p>・地域への提供、提案までは行かなかった。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画							
(1) 地域への積極的な情報発信及び提案							
① サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信							
32	○ 運営推進会議の記録について、誰でも見ることができるような方法での情報発信が、迅速に行われている		○			・継続してほしい	✓ 「誰でも見ることができる方法での情報発信」と「迅速な情報発信」の2つの視点から、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・正面玄関にあり誰でも見ることができる状況である。 ・去年の情報はスタッフに公開され閲覧もしている。					
33	○ サービスの概要や地域において果たす役割等について			○			✓ 「積極的な啓発活動」について、評価する項目です

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	て、正しい理解を広めるため、地域住民向けの積極的な啓発活動が行われている	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・ホームページ、情報誌発刊なども含め催事なども行っている。 ・コロナ過であり多忙でもあるため上記以外の活動は行えていない。					✓ 例として、「チラシ等の配布」や「地域説明会の実施」などの取組が考えられます。 ✓ 利用者や職員の確保のみを目的とした活動等は除きます
(2) 医療ニーズの高い利用者の在宅での療養生活を支える、地域拠点としての機能の発揮							
① 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を含む、地域への訪問看護の積極的な提供							
34	○ 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を対象とした訪問看護を積極的に実施している			○		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・今年度は3名ご利用があった、地域のケアマネージャー様からの問い合わせも増えてきている。 ・訪問看護としても、チラシの配布営業活動を行っている。	✓ 「指定訪問看護事業所の指定を併せて受けている事業所」のみが対象です。該当しない場合は、実施状況欄は無記入で、[具体的な状況・取組内容]欄に「指定なし」と記入してください ✓ 「登録者以外を対象とした訪問看護」を実施していない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 医療ニーズの高い要介護者の積極的な受け入れ							
35	○ 「たん吸引」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている			○		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・痰吸引資格を持っている介護職員が限られているため、積極的には受け入れができない。 ・要介護者の受け入れと共に研修を行ない職員の技能向上に取り組んでいる。今年度は3名の介護者が研修中である。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
36	○ 「人工呼吸器」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている			○		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・CPAP など対応できているがまだご利用はない。 ・日中は行なえるが夜間に関しては対応ができない。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
37	○ 「看取り支援」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている		○			<p>・<u>積極的な受け入れ充足に評価します。</u></p> <p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度 2 名のお看取りをさせていただきました。ターミナルケアの実績もありマニュアルもあります。 ・情報として受け入れ可能であると出している。 ・ご本人、ご家族の希望により可能な範囲でサービスを調整し、希望に近い形で受け入れを行っている。 ・経管栄養、胃ろう、導尿カテーテル、点滴などのご利用者も受け入れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
(3) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画							
① 行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解							
38			○			✓ 「内容等の理解」について、その	

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	○ 管理者および職員が、行政が介護保険事業計画等で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について理解している						<p>充足度を評価します</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 地域包括ケアシステムの構築にあたっては、その中で各々が果たすべき役割を、明確に理解することが必要であるといえます ✓ 地域包括ケアシステムの構築方針や計画などが無い場合は、「全くできていない」
② サービス提供における、(特定の建物等に限定しない) 地域への展開							
39	○ サービスの提供エリアについて、特定の集合住宅等に限定せず、地域に対して積極的にサービスを提供している		○			<p>・継続してほしい</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「特定の集合住宅等に限定しない、地域への積極的な展開」について、充足度を評価します ✓ 看護小規模多機能型居宅介護は、特定の集合住宅等に限定することなく、地域全体の在宅療養を支える核として機能していくことが期待されます ✓ 特定の集合住宅等のみを対象としている場合は「全くできていない」
③ 安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
40	○ 介護・看護の観点から、地域の関係者に対し、必要に応じて課題提起や改善策の提案等が行われている		○			<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・インフォーマルのサービスについての情報が薄い。 ・介護、看護が得た情報を共有するだけでなく、関係者にも必要に応じて情報共有を行っている。 ・保険外サービスの希望が多いが対応できていない。行える他業者の存在もはっきりと分かっていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「課題提起や改善策の提案等の取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、必要となる保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等、利用者等のみでなく地域における課題や改善策を関係者に対して提案していくなどの役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」
41	○ 家族等や近隣住民などに対し、その介護力の引き出しや向上のための具体的な取組等が行われている			○		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ご家族に対して持っている知識を活かして少しずつ関わりながら技術などを伝えています。 ・近隣住民に対してはコロナ過もあり行なえていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等や近隣住民に対する、介護力の引き出しや向上のための取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、利用者への家族等や近隣住民の関わりを促しながら、関係者全員の介護力を最大限に高めることにより、在宅での療養生活

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	およそ でき ている	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
							<p>を支えていくための環境を整えていくなどの役割も期待されます</p> <p>✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」</p>

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
Ⅲ 結果評価				
① 計画目標の達成				
42	○ サービスの導入により、利用者ごとの計画目標が達成されている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている ②. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない <u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・各担当職員、CM が連携しサービスについて情報共有を行うことで希望に沿ったサービスを提供できている。		✓ 「計画目標の達成」について、評価します
② 在宅での療養生活の継続に対する安心感				
43	○ サービスの導入により、利用者およびその家族等において、医療が必要な状況下においての在宅での療養生活の継続に対し、安心感が	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている ②. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない		✓ 在宅での看取りを除く、全ての利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「医療が必要な状況下においての、在宅での療養生活の継続に対する安心感」に

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
	得られている	<u>[具体的な状況・取組内容]</u>		ついて、評価します
44	○ サービスの導入により、在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等において、在宅での看取りに対する安心感が得られている	<p>①. ほぼ全ての利用者について、達成されている</p> <p>2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている</p> <p>3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている</p> <p>4. 利用者の1/3には満たない</p> <p>5. 看取りの希望者はいない</p> <p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p>		<p>✓ 在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「在宅での看取りに対する安心感」について、評価します</p> <p>✓ 在宅での看取りは、事業所内(通い・泊まり)での看取りを含みます</p> <p>✓ 在宅での看取りの希望者がない場合は、「5. 看取りの希望者はいない」</p>